OUR VALUE CREATI

トクヤマは社会課題の解決に資する製品の供給を通じて、
環境と調和した新しい価値を創造していきます。

存在意義

化学を礎に、環境と調和した
幸せな未来を
顧客と共に創造する

ありたい姿

マーケティングと研究開発から始める
価値創造型企業

独自の強みを磨き、活かし、
新領域に挑み続ける企業

社員と家族が健康で自分の仕事と
会社に誇りを持てる企業

世界中の地域・社会の人々との繋がりを
大切にする企業

価値観

顧客満足が利益の源泉
目線はより広くより高く
前任を超える人材たれ
誠実、根気、遊び心。そして勇気

トクヤマの特徴

多様な市場で優れた存在感を示す製品群

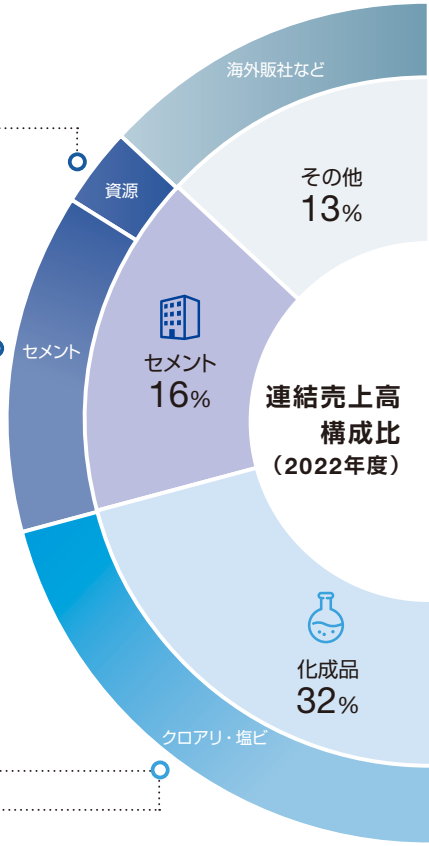
廃棄物処理

セメント

苛性ソーダ

塩化ビニル樹脂

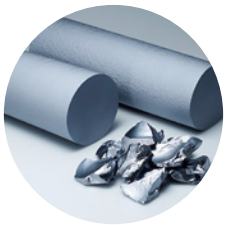
ソーダ灰



*1 CMP（Chemical Mechanical Polishing）：化学的機械研磨
*2 IPA：イソプロピルアルコール

ON トクヤマの価値創造

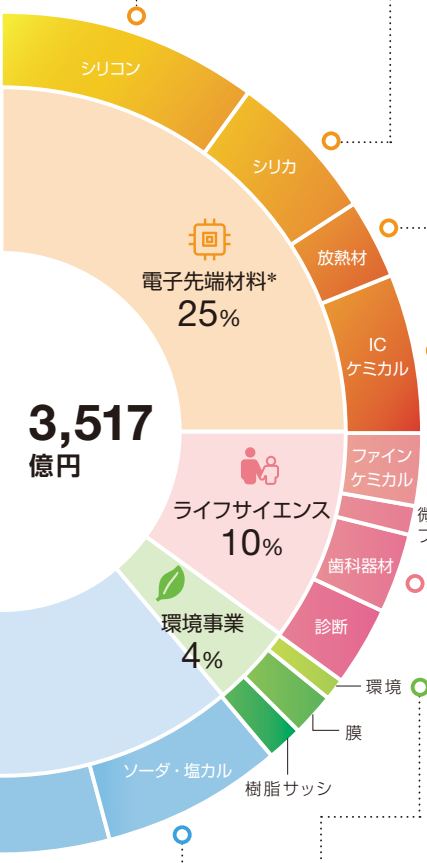
半導体用
多結晶シリコン



CMP*1用シリカ

高純度
窒化アルミニウム

電子工業用
高純度IPA*2

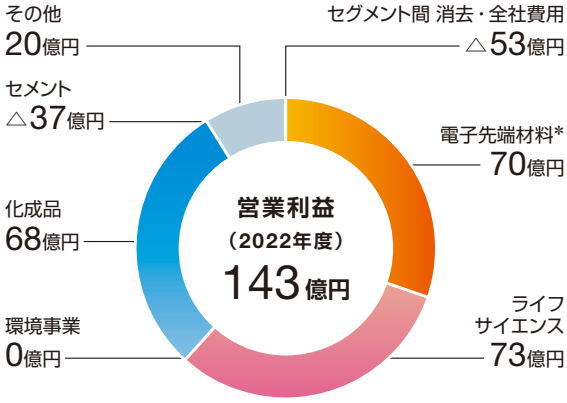


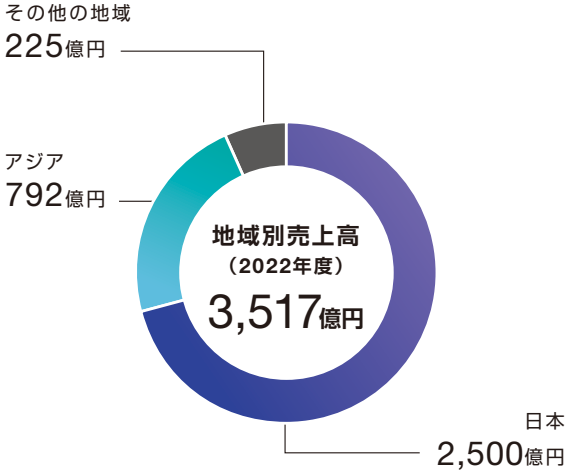
メガネレンズ用
フォトクロミック材料

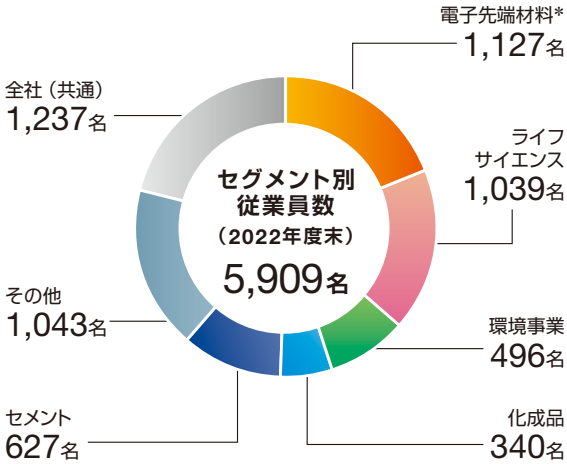
オムニクロマ®
歯科充填用
コンポジットレジン

廃石膏ボード
リサイクル

主要データ（2022年度実績）







*2023年4月1日より「電子材料」から「電子先端材料」に変更しました。

目 次

Section 1 トクヤマの価値創造

OUR VALUE CREATION 1
目次／編集方針 2
価値創造の歩み 4

Section 2 トクヤマの価値創造戦略

社長メッセージ 6
価値創造プロセス 12
価値創造を支えるトクヤマの強み 14
価値創造を高める力 16
中期経営計画2025の進捗 20
CFOメッセージ 22

Section 3 事業別戦略の進捗

電子先端材料 24
ライフサイエンス 26
環境事業 28
化成品 30
セメント 32

Section 4 持続可能な成長へのマネジメント

サステナビリティ担当役員メッセージ 34
ありたい姿とマテリアリティ 36
マテリアリティのKPIと実績 36
TCFD提言に基づく情報開示 40
コンプライアンス 43
ステークホルダーエンゲージメント 43
社外取締役座談会 44
コーポレート・ガバナンス 46
リスクマネジメント 50

Section 5 コーポレートデータ

財務・非財務ハイライト 52
役員一覧 56
会社情報 58

編集方針

「トクヤマレポート」は、経営方針や中長期的な戦略をステークホルダーの皆さまにわかりやすく伝えることを目的としています。今回の制作にあたっては、2022年のレポートに対して、投資家へのヒアリングや社内アンケートを実施し、お寄せいただいたご意見を企画に反映しています。本レポートがステークホルダーの皆さまにとって当社グループとの対話の促進につながり、当社グループへのご理解を深めることとなりましたら幸いです。
なお、本レポートは価値創造ストーリーに関連性が高い情報を簡潔に掲載しています。より詳細なIR情報やCSR情報については、当社ウェブサイトをご参照ください。

報告対象期間

2022年度（2022年4月1日～2023年3月31日）
※一部、2022年度以前・以後の活動や情報も含んでいます。

報告対象範囲

株式会社トクヤマおよび連結子会社（56社）
※報告対象範囲が異なる場合は報告対象範囲を各データに記載しています。
※本レポートにおいてトクヤマとある場合は、原則として株式会社トクヤマおよびトクヤマグループを総称しています。

参考ガイドライン

- 経済産業省「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス2.0」
- IFRS財団
  「Integrated Reporting Framework」
- Global Reporting Initiative（GRI）
  「GRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダード」
- 気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）
  「気候関連財務情報開示タスクフォースによる提言 最終報告書」

情報体系

	財務	非財務
戦略の全体像	**トクヤマレポート（統合報告書）** トクヤマの「今」と目指す「未来」について、財務・非財務の両面から幅広いステークホルダーの皆さまに向けて企業活動を報告しています。 https://www.tokuyama.co.jp/ir/report/annual_rep.html 	
詳細・最新データ	**株主・投資家情報** 株主・投資家にとって有益な情報を「IRライブラリ」にまとめています。 ・決算短信 ・決算説明会資料 ・有価証券報告書 ・コーポレート・ガバナンス報告書（会社情報） など https://www.tokuyama.co.jp/ir/	**CSR情報** トクヤマのCSR活動について、より詳細に報告しています。 https://www.tokuyama.co.jp/csr/ **トクヤマTCFDレポート** TCDFが推奨する「ガバナンス」「戦略」「リスクマネジメント」「指標と目標」の4つの項目に沿って、気候変動への取り組みを掲載しています。 https://www.tokuyama.co.jp/csr/tcfd_information.html **サステナビリティデータブック** 主にレスポンシブル・ケア活動、ESGの観点から、トクヤマの「今」を読み解くデータを掲載しています。 https://www.tokuyama.co.jp/csr/report/index.html

将来見通しに関する注意事項

本レポートには、会社の計画、戦略、業績等に関する見通しを記載しています。これらの見通しは、本レポートの制作時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、さまざまなリスクや不確実性の影響を受けます。トクヤマの実際の活動や業績は、これら見通しと大きく異なる可能性があります。その要因には、経済情勢、事業環境、需要動向、為替レートの変動などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

免責事項

本レポートは情報提供を目的とするものであり、何らかの勧誘を目的とするものではありません。本レポートに記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。

価値創造の歩み

時代背景 社会課題

- 第一次世界大戦（1914～18年）
- 第二次世界大戦（1939～45年）
- 日本の高度経済成長（1955～73年）

1918～　1945～　1960～

化成品：1918年 ソーダ灰の国産化のため日本曹達工業株式会社として創業。その後、塩化カルシウム、苛性ソーダ、塩ビ樹脂な

セメント：1938年 ソーダ灰事業の副産物を活かしてセメント製造開始。その後、製

トクヤマは1918年の創業以来、無機化学を深耕し、1970年代からは有機および高分子化学を中心に、社会課題に対応するように事業分野を広げながら技術の蓄積と新製品の創出に努めてきました。100年を超える歩みの中で確立してきた成長の礎となる技術を進化させながら、これからの時代に求められる新しい価値の創造に邁進していきます。

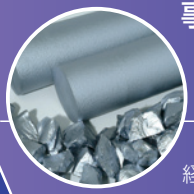
売上高・営業利益推移

トクヤマの価値創造

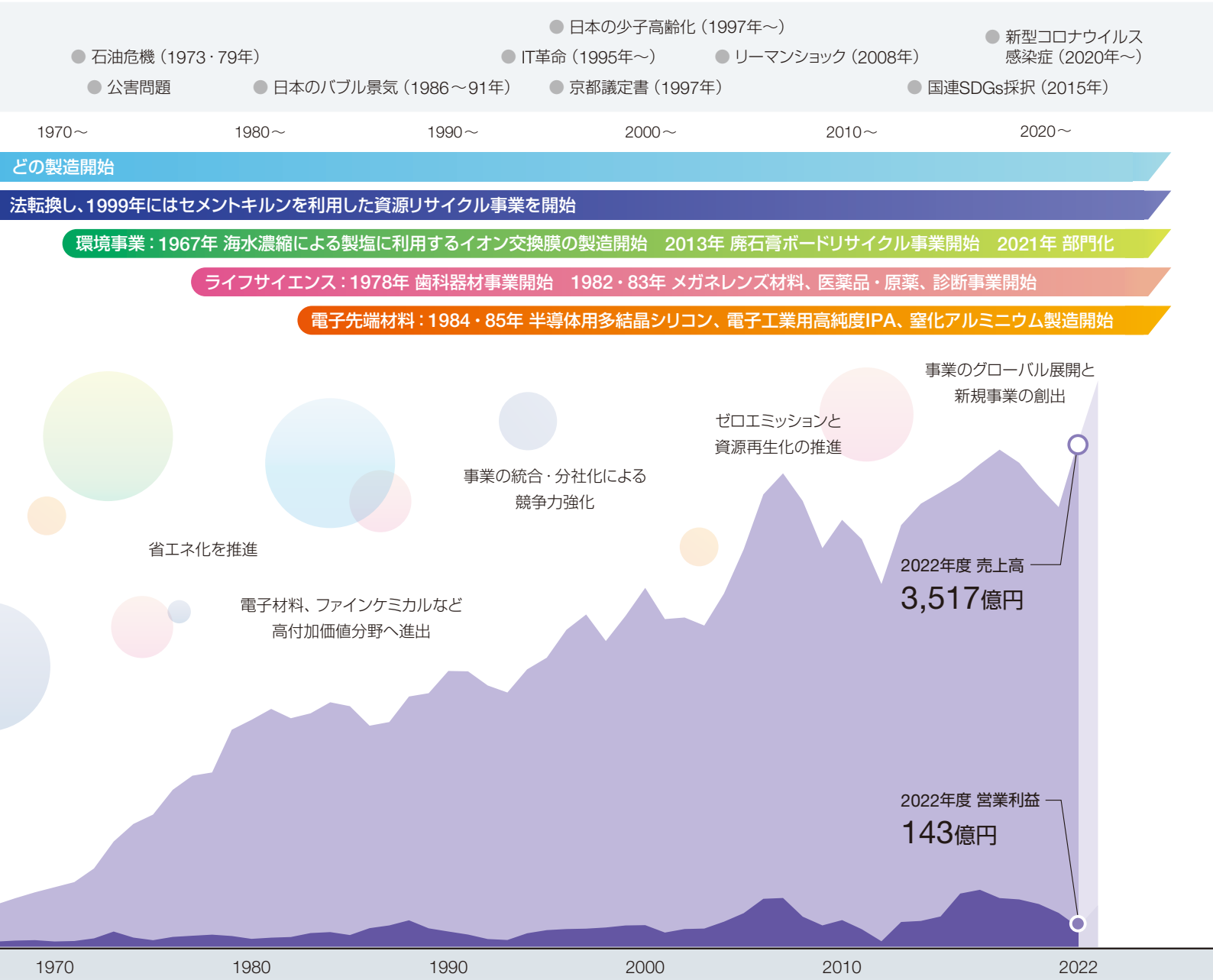
ソーダ灰の国産化により わが国の産業振興に貢献

トクヤマは1918年に創業者・岩井勝次郎により、日本曹達工業株式会社として設立されました。ガラスの原料となるソーダ灰（炭酸ナトリウム）の国産化に成功し、20年後には、副産物を活かしてセメント事業に進出。1952年には、市場の変化にあわせ苛性ソーダの製法を転換し、電解法による製造を開始します。日本の産業振興に懸けた創業者たちの情熱がトクヤマの発展の礎となりました。

事業の多角化を進め、 総合化学メーカーに飛躍



経営基盤を確立したトクヤマは、培った高度な技術を駆使して、新たな事業領域の開拓に挑戦します。1964年には、プロピレンオキサイドの製造開始により石油化学事業に参入。1970年代は、フィルムや建材、1980年代には、半導体産業の立ち上がりにあわせ多結晶シリコンなどの電子材料、健康を支える歯科器材やメガネレンズ材料など多彩な事業に進出し、総合化学メーカーへの飛躍を確実なものとしていきます。



海外拠点を拡充し、グローバル企業としての基盤を整備

1994年に社名を徳山曹達株式会社から株式会社トクヤマに変更すると、韓国、シンガポール、中国など、アジア地域を中心に、海外拠点の構築に邁進。国内においても、グループ企業の新設や統廃合を進め、事業推進体制のさらなる強化を図りました。1999年には持続可能な社会の構築に向けて、セメント工場を活用した廃棄物の再資源化ビジネスへの進出を果たしています。

価値創造型企業・ソリューション提供型企業へ

2021年、デジタル革命、DXの進展、世界的なインフレ、コロナ禍など、経済社会が激しく変容する中、トクヤマは新たなビジョンの実現に第一歩を踏み出しました。エネルギー多消費型企業から、価値創造型企業・ソリューション提供型企業へ。卓越した技術力と顧客への確かな提案力を両輪に、社会課題の解決に貢献し、独自の価値を発信する企業グループを目指しています。